

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	14	課題区分	C	令和5年5月23日	
横断的な課題	リニア及び三遠南信自動車道開通を見据えた地域づくりの推進						
地域重点政策	リニア及び三遠南信自動車道を活かす地域づくりの推進					南信州地域振興局	
実施機関	南信州地域振興局			担当課	所属	林務課	
事業名	南信州産木材のブランド化推進事業				電話	0265-53-0424	
				E-mail	minamichi-rimmu@pref.nagano.lg.jp (林務課)		
事業の概要等	目的 (目指す姿)	齢級(林齢)の平準化により、森林資源の持続的な利用と安定的な林業経営を図る。					
	現状と課題	<p>1 森林の現状 管内人工林の多くが主伐期を迎え、木材として利用可能になっているが、南信州地域は森林に占める30度以上の急傾斜地が約3割を占め、素材生産に占める主伐割合は約14%、1人当たりの素材生産量は0.2千㎡/人と10圏域のなかで最も低く、他地域に比べ主伐が進んでいない。</p> <p>2 木材の現状 令和3年からのウッドショックにより外国産材の価格高騰や品不足が発生し、国産材の価格が上がるとともに、建築、合板業界では外国産材から国産材へのシフトが進んでいるので、安定した供給体制をとることができる国内の木材生産地にとっては飛躍のチャンスである。</p> <p>3 今後の課題 育てる間伐から収穫する主伐へ移行し、伐採後の再生林を推進するため、木材として森林資源をフル活用できる仕組みづくりが必要となっている。</p>					
	内容 (変更後の内容)	<p>間伐から主伐・再生林への移行を進めながら、木材産地として「ALL南信州ブランド」の構築を目指し、林業・木材産業の連携等を図るために検討を行う。</p> <p>1 状況把握 森林資源のフル活用のため、南信州地域の森林組合、木材市場、製材・加工事業者等に対する、生産・流通の状況及び需要動向の調査</p> <p>2 木材利用事例集の作成 管内で施工された木造化や内装木質化、木製調度品等の事例を収集して事例集を作成</p> <p>3 ALL南信州ブランドの作成 木材の生産から利用に係る地域全体の将来像のプラン作成</p> <p>4 架線集材を想定した資源量把握・管理手法の検討 「持続性の担保された木材」の安定供給を可能とするため、架線集材の主伐計画地における資源量把握・管理手法の検討</p> <p>5 上記1～4により行った検討事項及び調査成果の内容は、令和5年度以降の林務課の新たな取組事業となるので、4月当初の事業説明時に概要版や成果品を作成して管内の林業木材関係事業者及び市町村へ配布・説明することで取組をスムーズにスタートすることができる。</p>					
事業期間	令和4年11月			～	令和5年3月		
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考			
	ALL南信州ブランド構築の検討等業務委託	状況把握、木材利用事例集作成、ALL南信州形態案の作成、資源量把握・管理手法の検討案の作成	935,000	委託料935,000円			
	検討事項及び調査成果による事業説明用の概要版や成果品の作成	成果品、概要版の印刷	208,340	印刷製本費208,340円			
	合計		1,143,340				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	本年度内の主伐・再生林、「All南信州ブランド」に係る管内の情報提供事業者等数		40者	40者	<input checked="" type="radio"/> 達成 <input type="radio"/> 一部達成 <input type="radio"/> 未達成		
事業実績・成果	<p>森林資源のフル活用のため、南信州地域の林業・木材関係事業者30者を対象に生産・流通及び需要動向のアンケート調査を行い13者から回答を得た。その結果、現状と将来の目標から、主伐・再生林の実施と木材のカスケード利用による素材生産量の増加に伴って管内の需要者に対する自給率が向上し、木材の安定供給が可能となることを確認できた。</p> <p>また、架線系立木ユニット構想が、森林資源量の把握と木材の安定供給に有効であることが確認できた。この結果について、地域内の事業者や市町村等40者に対して情報提供した。</p>						
今後の方向性	計画的な主伐と確実な再生林による木材のブランド化に向け、関係事業体と連携して架線系集材による主伐・再生林の成功事例の実現を図る。						